
鬼滅の刃(新世代)
第一話：光を呑み込んだ夜
桜


第一章：月子家の家族
ここは日本のとある美しく静かな村——
月子家の家族はその村で一番心優しく、
人を助けることで知られる家族だった。
父
Kurotora Tsukiko
(黒虎 月子)
—「刀月子鍛心」
刀子・剣・武器などを作る鍛冶職人。
その腕は村一番と評判。
母
Kaede Tsukiko
(楓 月子)
— 看護師として村の人々を助けている。
大丈夫ですよ、安心してくださいね。
桜のラーメン
また、家のことをすべてこなし、店でラーメンを作り、振る舞っている。
双子の兄妹
右：Kaito Tsukiko
(海翔 月子)
左：Akuma Tsukiko
(悪魔 月子)
村で一番の武術の才能を持つ兄妹。
明日の大会で、最強の称号をかけて競い合うことになっている。
まあまあ、明日が楽しみね。
ふふっ あなたが私に勝てるかな？
明日の大会で、俺とアクマが決勝戦で戦うぞ！
ははは、二人ともいい勝負だな。


第二章：迫る大会
父
母
母さん、父さん、明日は大会だ！俺とアクマ、ふたりで"闘龍の称号"をかけて戦うんだ！そして決勝で、俺はアクマと戦う！
ふふっ、さてねー あなたが私にたどり着けるか、見ものだわ。
どっちが勝つか、明日ははっきりするな！俺か、お前か！待ってろよ、アクマ！
ははは！楽しみだなあ、ふたりとも！
ふふっ、どちらが勝つのか明日が待ち遠しいですね。
さてさて、明日の勝負は楽しみにしていましょう。今はふたりとも ごはんをしっかり食べて、おばあちゃんの家へ行って、私が隠しておいたものを持ってきてちょうだい。
はーい！分かりました！行ってきます！
いってらっしゃい、気をつけてね。
はーい！
そしてふたりは、おばあちゃんの家へと向かった。
絶対に、今日は俺が勝つからな！
ふんっ、言うだけならタダよ。明日になれば分かるわよ！


第三章：おばあちゃんの家
二人はおばあちゃんの家に着いた。そこにはいつでも温かく迎えてくれるおばあちゃんがいた。
こんにちは、おばあちゃん！
来たよ！
あら、二人とも いらっしゃい。裏庭へおいで。
わあ…、これはすごい！
おばあちゃん、全部おばあちゃんが育てたの!?
きれい…！おいしそうな野菜たち！
こんなに立派に育てるのって、きっとすごく時間と手間がかかったよね。
そうだよ、アクマ。植物はね、水と太陽といい土が必要なんだ。大切に育てれば、おいしい野菜や果物をたくさん収穫できる。体にいい食べ物を食べることが、元気な体をつくる第一歩なんだよ。
さあ、そろそろ中へ入って。おばあちゃん特製の野菜たっぷり味噌汁だよ。みんなで食べようね。
うんっ!! 大好き!!
いただきます！
うまっ…！やっぱりおばあちゃんの味噌汁は最高だな！
もぐ
うんうん！この味、ほっとするね～！
もぐ もぐ
ふふっ、二人が喜んでくれるのがおばあちゃんの一番の楽しみなんだよ。
明日の大会、絶対に勝ってくるからね！終わったらまた遊びに来るよ！
うん！明日は来てね。私たちの試合を見て応援してくれるでしょ？
もちろん行くよ。二人の勇姿をしっかり応援するからね。頑張っておいで！
あっ、それから、二人が取りに来たものを忘れずに持って行きなさい。お母さんに渡してね。中はお母さんに開けてもらいなさいね。
ありがとう、おばあちゃん！
お母さんにちゃんと言うね！
気をつけて帰るんだよ。また明日、元気な顔で会おうね！
うん！また明日ね～！


第４章：最後の任務
お母さん！
お姉ちゃん、久しぶり！
あら、二人とも！どうして来たの？
アコマと弟は久しぶりに実家を訪れた。二人を迎えたのは、彼らを愛する母だった。
お土産を持ってきたよ。
わぁ！二人からのプレゼントなのね。
ありがとう！とってもうれしいわ。
これからもお互いを思いやって、支え合っていきなさいね。
あなたたちは私にとってかけがえのない宝物よ。何があっても、いつもそばにいるからね。
うん、ママ？
これ、みんなで食べてね！おいしいお菓子と果物をたくさん買ってきたの！
まあ、ありがとう、うれしいわ！
ありがとう、ママ！
うふふ、いいわよ。手伝ってくれるならね。
うん、手伝うよ。
いってらっしゃい、気をつけてね！
僕たちも行くよ、お母さん！
またね、お母さん！すぐに戻るからね！
アコマは家を離れた。だが、いつかまた家族のもとへ戻ることを、彼女は心に誓っていた。


第五章：夕暮れの約束
夕暮れが村を静かに染めていく中、アクマはお母さんの友達の店へ急いでいた。
もうすぐ着くわ。
お腹すいたー 家に着いたら、お母さんの作る美味しいラーメンが待ってるはず！
急がないとー 遅くなっちゃう！
カラン
あのっ！待ってください！
布と家事の店
えっ？
アクマ？！
こんばんは。お母さんからの贈り物です。
のお手伝いをしてくださったお礼の気持ちです。
それとー これをお願いし来ました。
この布をお母さんからの頼まれ物です。届けますか？
こんな時間に？どうしたの？
まあ、ありがとう！そんな気遣いはいらないのにー お母さんのためなら私の役目よ。
この布ねー
ちょっと確認させてね。
うーんー この種類は奥の倉庫にあったはず。探してみるわね。
確かこの辺にー
でも、どうしてこの布なの？なにか特別なことがあるの？
いいえ、特にー ただお母さんがこの布が必要だって言ってたんです。私には何に使うかわかりません。
遅くなっちゃったー！
急がないと！家に早く帰らないと！
もう少しで着くわ。お腹ペコペコー
お母さんのラーメンが私を待ってる！
あれー？家のドアが開いてるー？
お父さん、もう帰ってきたのかしら？なんだかー おかしいなー


第六章：黒い夜
なっ… なんなの… これは…？
アクマが家に入ると、目にしたのは信じられない光景だった。家中が血に染まり、家族の姿は見るも無惨なものになっていた。
うそ… なんで… どうして…
お母さん…！
お父さん…！
なぜ…こんなことに…！？
お兄ちゃん…！
うそ…やめて… こんなの… いやだよぉ…！
うわああああああああああああああああ!!!
いやぁぁぁぁぁぁ！ お母さん！ お父さん！ お兄ちゃん！ どうしてこんなことに…！？
行かないでよぉぉ！ 置いていかないでぇ！ 私をひとりにしないでぇぇぇ！
お母さん！ 降りてきてよ！ 約束したでしょ？ 帰ったら美味しいラーメンを作ってくれるって！
お父さん！ 起きてよ！ 明日の試合の準備を一緒にしようよ！
お兄ちゃん！どこ！？ これ、いつものいたずらでしょ！？ 出てきてよ！ 試合の準備しようよぉぉ！
ううっ… お願い… お願いだから… お願いだからぁぁぁ…！
なんで…なんで… 私、まだ何もしてないよ？ みんなを守りたかったのに… どうして…どうして…！
激しい悲しみと絶望で、アクマはその場に倒れ込み、意識を失ってしまった――。
アクマ… 妹よ… アクマ…
お兄ちゃん…？ 夢…？それとも…
はっ


意識が闇に沈み――そして、夢の世界へ
よかった…悪い夢だったんだ…
ここは…夢？
お兄ちゃん！
お母さんはどこ？
やあ、姉さん
姉さん…これは冗談じゃない
約束して、姉さん。明日の大会で勝ってくれ。そして周りの人を助け続けてくれ。俺はそばにいられないど―記憶に生き続ける。君が生きている限り。
俺たちは旅立った。でも、ここにいる
後ろの人が君を助けてくれる―

著者プロフィール

Akumatsoki0

ユーザー名: Akumatsukik0
プラットフォーム: TikTok
活動内容: ストーリーテリング、ショートビデオ制作

「短い時間で、深い物語を。」

概要

Akumatsoki0は、TikTokで独自の物語をデザインし、発信している才能豊かなクリエイターです。彼の作品は、限られた短い時間の中で視聴者の心を引き込み、驚きや感動を与える魅力を持っています。

クリエイターとしての特徴

圧倒的な創造力: 斬新なアイデアと魅力的な

キャラクターを通じて、独自のストーリーラインを展開します。

視覚的な表現: 映像と音楽、そしてテキストを巧みに組み合わせ、視聴者を物語の世界へ没入させます。

視聴者との繋がり: フォロワーとの交流を大切にし、コメントや反応から新たなインスピレーションを得ています。